



ARISAWA ENVIRONMENTAL REPORT

2017 環境報告書

Dreams to Reality

ARISAWA
ENVIRONMENTAL REPORT
2017 環境報告書

C O N T E N T S

当社における環境活動	1
経営方針	2
環境方針	2
推進体制	3
2016年度環境目標・実績及び評価	3
環境負荷マテリアルバランス	4
2017年度環境目標	4
環境負荷物質低減の推進	5
廃棄物の管理	7
グリーン購入	7
環境苦情	8
環境活動	8
環境情報の開示	9
会社概要	10

「2017環境報告書」の対象範囲

- 対象期間 2016年度(2016年4月～2017年3月)
- 対象事業所 本社・南本町工場(含むアリスワフアイバーグラス株式会社、
敷地内有沢総業株式会社)
中田原工場(含む敷地内有沢総業株式会社)
中田原西工場(含む敷地内有沢総業株式会社)

社員一人ひとりが常に考え前に進む事により、
より強い健全な会社を目指し、
更なる発展を目指してまいります。

2017年10月20日
株式会社 有沢製作所
CEO



COP21では「パリ協定書」が、国連においては「持続可能な開発目標(SDGs)」が採択され、地球規模で拡大し続ける気候変動の問題解決に向け各国がその目標に向かって共に進んでいる一方、皆様も身近に接することの多くなった非常に強い台風やゲリラ豪雨などの発生原因は、温室効果ガス(高濃度のCO₂)による影響が大きいという報告も環境白書でされております。

こうした状況下、当社では環境負荷の低減に向けた各種の活動に加え、地震や風水害に備える対策にも注力してまいりました。その一例として、エネルギー使用の見える化による管理と、工場設備・建屋の改良と各種高効率機器への更新等を計画的に実施すると共に、2016年には新社屋を建設し本社機能の集約と安全性の一層の向上を図ってまいりました。

当社の事業内容は、電子材料、産業用構造材料、電気絶縁材料、ディスプレイ材料の製造・販売であり、さまざまな産業の発展に貢献しております。そして環境活動は、環境負荷の低減を目指した製品・技術の開発、有害物質の管理強化、環境法令の遵守、省エネ化、環境教育、環境ボランティア活動等を全社目標として掲げ継続して社会的責任を果たすべく取り組んでまいります。

環境負荷の低減を目指した製品・技術の開発として電子材料分野では、小型化、省エネ化に対応するICの発熱を効率的に放熱する高放熱シートを開発しました。産業用構造材料分野では、航空機用内装材として航空機燃料の省エネ化に対応する軽量・高強度・難燃性に優れたハニカムカーボンパネルを開発いたしました。

そして継続して地域社会の皆様とコミュニケーションをはかっていく事により、今後も環境に配慮した事業活動を継続してまいります。

本報告書は、2016年度における当社の環境に関する活動をまとめたものとなっており、当社の環境活動の状況をご理解いただければ幸いです。

中期経営計画『昨日より今日、今日より明日』のスローガンのとおり、社員一人ひとりが当社独自の「織る、塗る、形づくる」技術を育み前に進み続けることにより、ユーザーニーズに応えるような技術革新を起こし続け、より強く健全な会社となることを目指してまいります。

株主様、お客様、お取引先様、地域社会の皆様におかれましては、アリサワグループへの変わらぬご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

CIC 昨日より今日、今日より明日

～一歩ずつ前に進み、よりよい未来を作り上げよう～

経営方針

「創造」「革新」「挑戦」を基本とし、

- I. 新たな価値を提供し、顧客満足を高める。
- II. 潜在ニーズを探求し、新たな事業を創り出す。
- III. 海外事業を推進し、グループの総合力で企業体質を強化する。
- IV. 自らの安全を守り、ゼロ災を実現する。

私たちの行動指針

1. 相手の立場を理解し、もっとも良いと考え抜いた行動を起こす。
2. 他人と自分を比べるのではなく、昨日の自分と今日の自分を比べる。
3. やると決めたら責任をもって約束を果たす。

CIC とは 創造: **C**reation 革新: **I**nnovation 挑戦: **C**hallenge

環境方針

当社は、電子材料、ディスプレイ材料、電気絶縁材料及び産業用構造材料の開発・設計から製造に至るまでの事業活動全般において、環境に与える負荷の低減に努め環境保全を推進するために、次のことを実行致します。

- ① 当社の事業活動、製品及びサービスが環境に与える影響を把握し、環境汚染の予防に努める。
- ② 環境法規、規制、協定及び当社が同意したその他の要求事項を順守する。
- ③ 環境活動の推進に当たり、「環境目的及び目標」を設定・実行し、定期的に見直す。
- ④ 環境負荷の低減を指向した製品開発、技術開発を行う。
- ⑤ 環境に影響を与える可能性のある有害化学物質の管理強化を行う。
- ⑥ 大気、水質、土壌汚染等の防止管理の強化を行う。
- ⑦ 省資源、省エネルギー、産業廃棄物の削減、リサイクルの推進に取り組む。
- ⑧ 環境教育を通じ全社員の意識向上を図り、自ら責任を持って環境保全活動を遂行できるよう、啓発を行う。
- ⑨ 内部環境監査、マネジメントレビューを定期的実施し、環境管理マネジメントシステムの継続的改善を図る。

この環境方針は、社内外に公表する。

環境負荷マテリアルバランス

IN PUT

	2016年度	2015年度
◇エネルギー投入量		
燃料 (原油換算)	9,094KL	8,977KL
○都市ガス	8,169千m ³ N	8,064千m ³ N
○A重油	0	0
○LPG	8.0ton	7.0ton
○ガソリン	29.8KL	32.1KL
○軽油	32.1KL	31.3KL
○灯油	1.7KL	1.8KL
電力 (原油換算)	8,890KL	8,621KL
○電力	34,590千kwh	33,545千kwh
◇購入品	8,066ton	8,364ton
原材料	6,282ton	6,548ton
有機溶剤	737ton	734ton
副資材	1,047ton	1,082ton
◇水資源投入量		
総投入量	399.6千m ³	386.5千m ³
○上水	189.8千m ³	125.4千m ³
○地下水	209.8千m ³	261.1千m ³

OUT PUT

	2016年度	2015年度
◆CO₂排出量	33,971ton	33,258ton
●燃料分	17,748ton	17,525ton
●電力分	16,223ton	15,733ton
◆有機溶剤大気排出量		
●PRTR対象物質	138ton	148ton
◆産業排出物	1,738ton	1,935ton
●リサイクル(再生使用)	1,668ton	1,872ton
●埋立処分	70ton	63ton
(総排出量/生産高実績)	10.18t/億円	10.44t/億円

2017年度環境目標

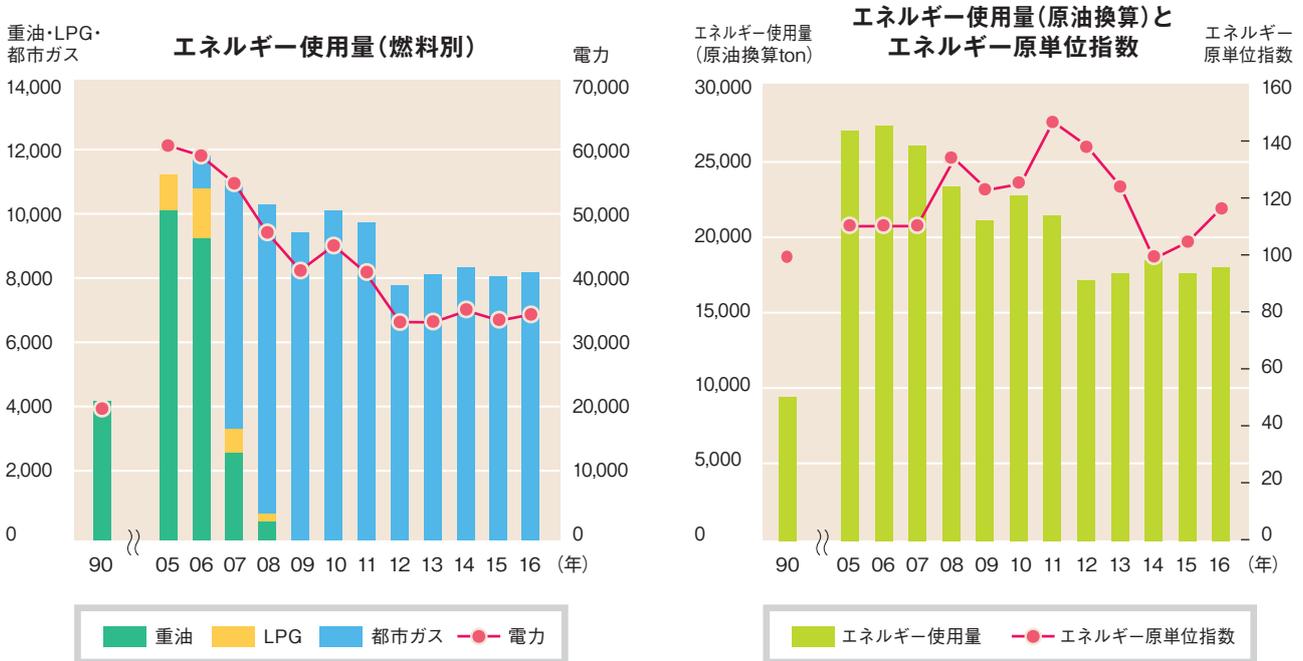
2017年度 全社環境目標

No	環境方針	2017年度環境目標	目標値
1	環境負荷の低減を指向した製品開発、技術開発を行う。	環境負荷の低減を指向した製品開発、技術開発を行う。	期間中に2件以上
2	環境に影響を与える可能性のある有害化学物質の管理強化を行う。	既存原材料で有害物質の未調査品について調査を行い、メーカーよりデータ、保証書入手する。	データ、保証書入手する。
3	大気、水質、土壌汚染等の防止管理の強化を行う。	各グループにおける管理基準を遵守し、新たな汚染を発生させない。	環境法令違反ゼロ件
4	省資源、省エネルギー、産業廃棄物の削減、リサイクルの推進に取り組む。	① 省エネルギー(電気・都市ガスの削減) ② 産業廃棄物総排出量の削減	①-1 南本町工場 2016年度エネルギー量/補正加工高実績の1%削減 ①-2 中田原・中田原西工場 2016年度エネルギー量/補正加工高実績の1%削減 ② 2016年度産業廃棄物排出量/生産高実績の1%削減
5	環境教育を通じ全社員の意識向上を図り、自ら責任を持って環境保全活動を遂行できるよう、啓発を行う。	① 一般教育訓練の実施 ② 特定業務従事者教育の実施 ③ 雇入れ又は異動者教育訓練の実施	① 年1回実施 ② 年1回実施 ③ 雇入れ、異動時
6	その他環境活動	① 環境ボランティア活動の実施 ② 環境報告書の発行	① 1回以上 ② 10月発行

環境負荷物質低減の推進

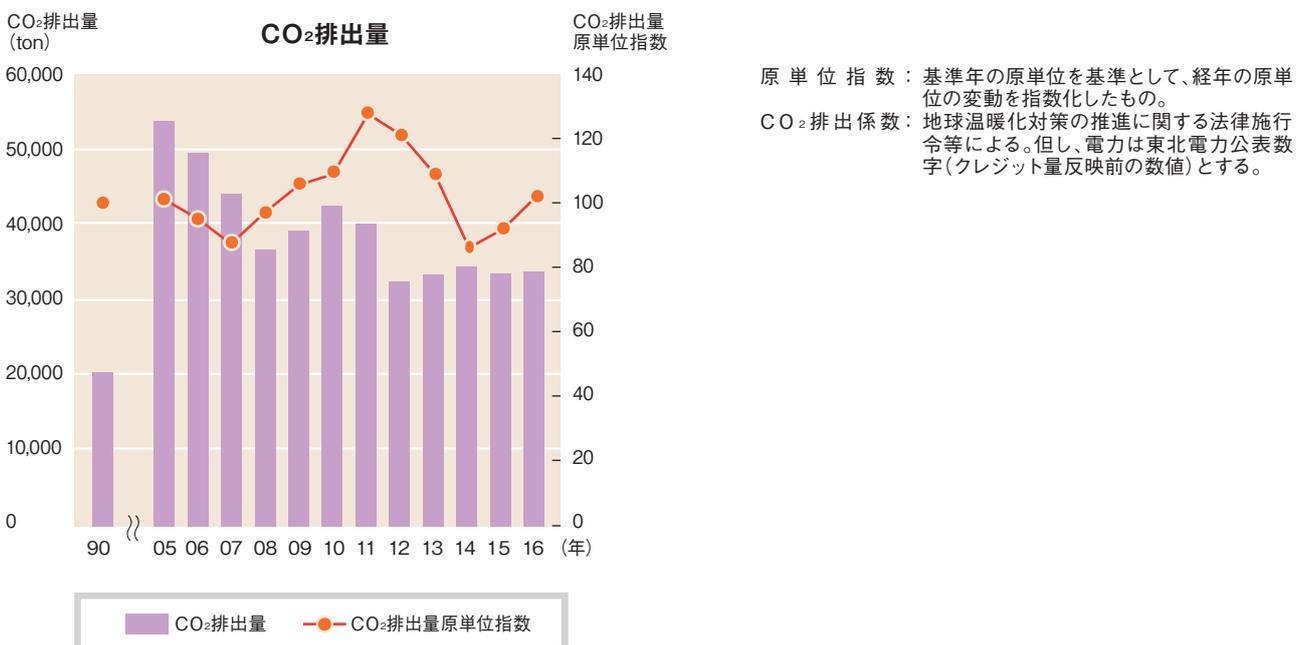
I. エネルギー使用量

当社は主なエネルギーとして、CO₂排出量の少ない電力と都市ガスを使用しております。
エネルギー原単位指数は117となり、前年度より12ポイント増加となりました。



II. CO₂排出量の削減

CO₂排出量は33,971tonとなり、前年度比713ton増加となりました。また、CO₂排出量原単位指数は前年度比10ポイント増加し、102となりました。



Ⅲ. PRTR法対象化学物質

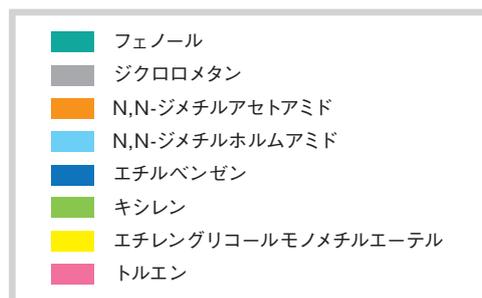
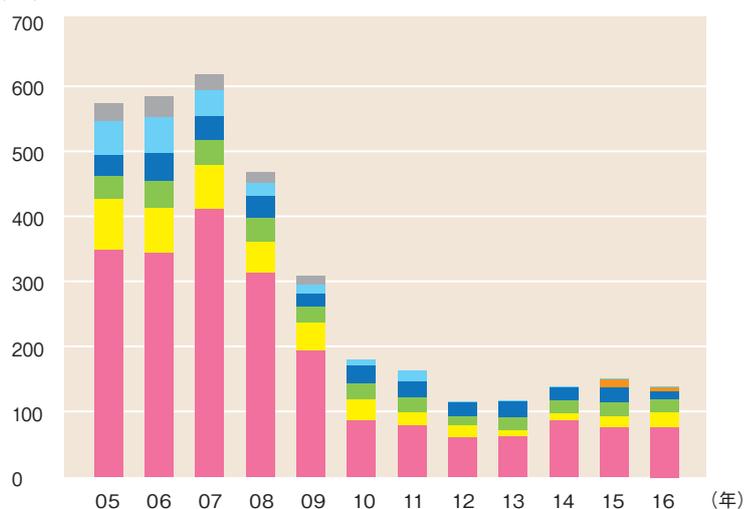
PRTR第一種指定化学物質の大气排出量(届出対象分)は、前年度比べ約7%減の138tonでした。

単位: ton

政令番号	物質名	取扱量	移動量	大气排出量
31	アンチモン及びその化合物	1.5	0.2	0.0
53	エチルベンゼン	35.9	6.7	20.8
58	エチレングリコールモノメチルエーテル	30.3	4.9	13.9
80	キシレン	35.6	6.7	20.7
213	N,N-ジメチルアセトアミド	6.7	0.9	1.3
232	N,N-ジメチルホルムアミド(DMF)	10.4	0.8	2.1
240	スチレン	8.7	1.2	0.0
300	トルエン	196.9	25.6	79.3
349	フェノール	1.4	0.2	0.0
352	フタル酸ジアルル	1.9	0.4	0.0
405	ホウ素化合物	1.3	0.2	0.0

排出量
(ton)

大气排出量



PRTR(Pollutant Release and Transfer Register:化学物質排出移動量届出制度)とは、有害性のある多種多様な化学物質が、どのような発生源から、どれくらい環境中に排出されたか、あるいは廃棄物に含まれて事業所の外に運び出されたかというデータを把握し、集計し、公表する仕組みです。

Ⅳ. 水質汚濁物質の対策

公共用水域に排出される特定施設に関わる水質汚濁物質は、すべて適正な処理を施した後、排水しております。今後も定められた監視と測定を行い、排水基準を順守していきます。

Ⅴ. 土壌汚染の対策

地下水基準値を超過したエリアでは、揚水曝気浄化処理を行い、還元分解され汚染濃度範囲が縮小するなどの浄化効果を確認しています。引き続き、行政の指導のもと、敷地外部への影響についてもモニタリングするなど、適正に対策を推進していきます。

また、今後実施する事業所の統廃合や再構築等での土地の形質変更時には、改正土壌汚染対策法に基づき、届出・調査・報告を適正に実施するとともに、調査結果の情報開示と汚染が確認された場合の対策に努めます。

廃棄物の管理

1) 産業廃棄物の発生量

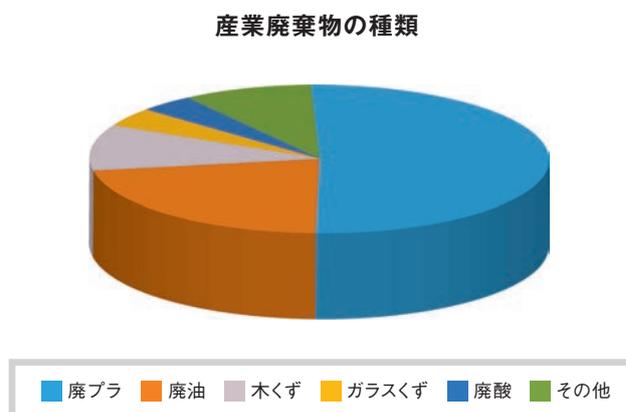
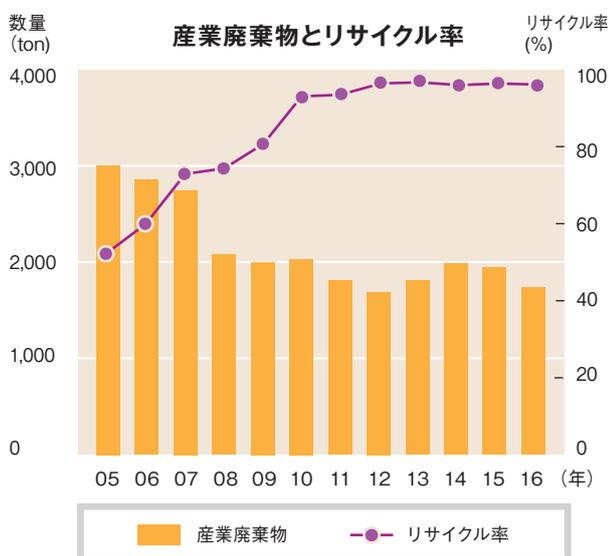
産業廃棄物の発生量は、1,738tonでした。また、産業廃棄物の内訳は、廃プラスチック類51%、廃油22%、木くず10%、ガラスくず4%、廃酸4%、その他9%でした。

2) 産業廃棄物のリサイクル化

積極的なリサイクル化(サーマルリサイクル又はマテリアルリサイクル)を継続して進めており、2016年度のリサイクル率は96.0%となりました。

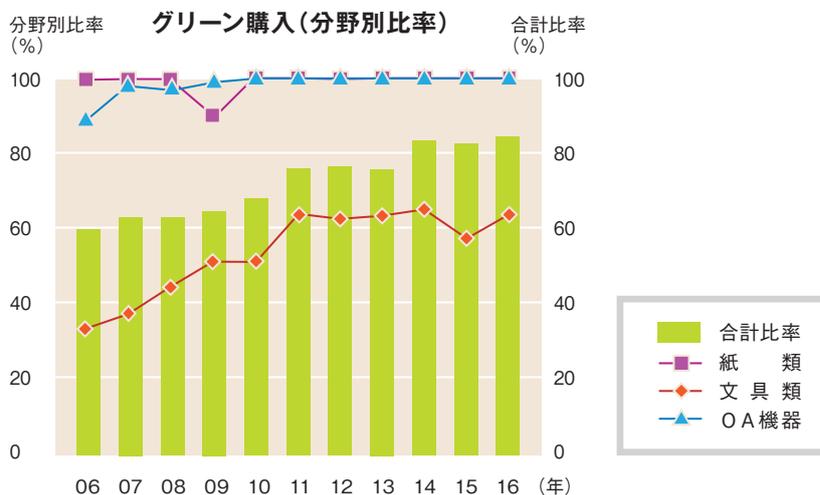
3) 産業廃棄物の処理委託

当社は、処分業者に産業廃棄物の処理を委託しています。「廃棄物の処理及び清掃に関する法律(廃掃法)」に従い、産業廃棄物管理票(マニフェスト)を適切に交付し、最終処分先に至るまで確認をおこなっています。また、処分業者へは現地確認(書類審査を含む)を実施し、当社の排出物が適正に処分されていることを確認しています。



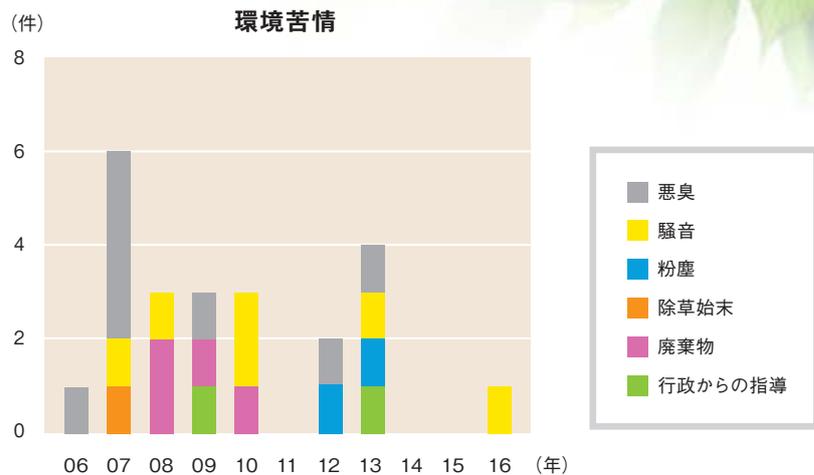
グリーン購入

グリーン購入比率は、金額ベースで84.4%になりました。



環境苦情

2016年度は近隣住民からの騒音苦情が1件ありました。空調設備の室外機が経年劣化により振動を発生し、外壁と共振したため音が増幅されたものでした。早急に修理を行い、通報された住民からご了解を頂きました。今後も環境情報に対し、関係者の皆様とコミュニケーションを活発にし機敏に対応してまいります。



環境活動

第24回青田川クリーンアップ活動に参加(2016年6月22日)

青田川の一斉清掃「クリーンアップ活動」に参加しました。川沿いの町内会や事業所、地元小学校児童等、約520人が参加し、高田地区の中心を流れる青田川の伊勢橋から往下橋間で清掃活動を実施しました。

第5回アリスワecoウォークラリー実施(2016年10月22日)

地域のゴミ拾いをしながらウォークラリーを開催し、社員259名が参加しました。拾ったゴミの総重量は85kgにもなりました。



※写真は前年度のものです。

環境情報の開示

2016年度事業所別環境データ

[南本町工場]

◆水質(排水口No.10…青田川排水口)

項目	単位	排出基準	測定結果
pH	-	5.8~8.6	7.5
BOD	mg/L	60	8.4
SS	mg/L	60	3.0

◆大気

ボイラー	項目	単位	排出基準	測定結果
	ばいじん	g/m ³ N	0.10未満	0.01未満
	NOx	ppm	150未満	28~63

[中田原西工場]

◆大気

ボイラー	項目	単位	排出基準	測定結果
	ばいじん	g/m ³ N	適応外	*
	NOx	ppm	適応外	*

◆下水道排水

	項目	単位	排出基準	測定結果
A路線	pH	-	5.7超~8.7未満	7.5
	BOD	mg/L	300未満	15.8
	SS	mg/L	300未満	4.3
B路線	pH	-	5.7超~8.7未満	**
	BOD	mg/L	300未満	**
	SS	mg/L	300未満	**
C路線	pH	-	5.7超~8.7未満	**
	BOD	mg/L	300未満	**
	SS	mg/L	300未満	**
D路線	pH	-	5.7超~8.7未満	**
	BOD	mg/L	300未満	**
	SS	mg/L	300未満	**

* 測定年度対象外
** 流水量不足のため測定不可

[中田原工場]

◆水質(排水口No.2)

項目	単位	排出基準	測定結果
pH	-	5.8~8.6	7.8
BOD	mg/L	25	1.2
SS	mg/L	50	6.5

◆水質(排水口No.7)

項目	単位	排出基準	測定結果
pH	-	5.8~8.6	7.1
BOD	mg/L	25	5.5
SS	mg/L	50	2.4

◆大気

ボイラー	項目	単位	排出基準	測定結果
	ばいじん	g/m ³ N	0.10未満	0.01未満
	NOx	ppm	150未満	34~65

◆下水道排水

	項目	単位	排出基準	測定結果
A路線	pH	-	5.7超~8.7未満	8.1
	BOD	mg/L	300未満	6.6
	SS	mg/L	300未満	3.2
B路線	pH	-	5.7超~8.7未満	**
	BOD	mg/L	300未満	**
	SS	mg/L	300未満	**
C路線	pH	-	5.7超~8.7未満	7.8
	BOD	mg/L	300未満	20.3
	SS	mg/L	300未満	10.2
D路線	pH	-	5.7超~8.7未満	7.4
	BOD	mg/L	300未満	55.2
	SS	mg/L	300未満	17.5

検査機関：一般財団法人 上越環境科学センター

会社概要 (2017年3月31日現在)

社名	株式会社有沢製作所
代表者	代表取締役社長 有沢 悠太
創業	1909年(明治42年)4月8日
設立	1949年(昭和24年)7月1日
資本金	7,317百万円
売上高	単体:23,410百万円(連結:34,451百万円)
経常利益	単体: 1,898百万円(連結: 2,690百万円)
本社	〒943-8610 新潟県上越市南本町一丁目5番5号
事業内容	電子材料、産業用構造材料、電気絶縁材料、ディスプレイ材料の製造・販売
工場	南本町工場 新潟県上越市南本町一丁目5番5号 中田原工場 新潟県上越市大字中田原1番地 中田原西工場 新潟県上越市大字中田原55番地

関連会社

社名	アリスワファイバーグラス株式会社
本社	〒943-8610 新潟県上越市南本町一丁目5番5号
事業内容	ガラスクロス、ガラステープの製造
社名	有沢総業株式会社
本社	〒943-8610 新潟県上越市南本町一丁目5番5号
事業内容	倉庫管理・物流業務全般

ISO14001認証

組織の名称	株式会社有沢製作所
所在地	〒943-8610 新潟県上越市南本町一丁目5番5号
対象事業所	本社・南本町工場 (含むアリスワファイバーグラス株式会社、敷地内有沢総業株式会社) 中田原工場 中田原西工場
適用規格	ISO14001:2004
登録日	2007年6月18日



住所 / 新潟県上越市南本町一丁目5番5号
お問い合わせ先 / 総務部安全環境グループ
TEL. 025(524)6513
<http://www.arisawa.co.jp/>